

<2022.6.14 環境省公表 国立・国定公園 総点検事業フォローアップの分析結果>  
・環境省は全国14候補地(実質23地区)の国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を選定  
・候補地は2030年まで自然環境調査を継続し、随時生態系保全を主眼とする大規模拡張を目指す

環境省はその方向性を  
2025年度中に示したいとしている

### 1. 環境省の見直しパターン

国立編入か又は国定新規指定を選択する候補地は  
八幡平周辺(森吉山・真昼山地・田沢湖等)のみです



### 4. 森吉山国立公園 新規指定の課題

今回のフォローアップによる新たな大規模拡張候補地(4地域)の取り扱い

(1) 能登半島	能登半島国立公園区域の拡張(塩田や里地里山の組み入れ)
(2) 奥只見・奥利根	上信越高原国立公園・越後三山只見国立公園区域の拡張等
(3) 阿蘇周辺の草原	阿蘇くじゅう国立公園区域の拡張(カルデラ外縁部の拡張)
(4) 八幡平周辺	国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定 ※拡張対象地域の4公園(森吉山、和賀山塊、真昼山地、田沢湖抱返り、太平山県立自然公園)は、十和田八幡平国立公園に編入又は国立公園の新規指定を選択することになる。

●環境省は「八幡平周辺の4つの県立自然公園を編入しても、十和田八幡平国立公園のブランド名は替えない。十和田地域と八幡平地域の分割は行わない」との方針を示した。当初描いた「八幡平森吉山国立公園」の選択肢は消えたことになった。  
●そこで、単独の森吉山国立公園の新規指定の課題を以下にまとめた。

### 2. 八幡田周辺の大規模拡張地域の基本ストーリー

八幡平周辺(森吉山、真昼山地、田沢湖、太平山)国立公園の拡張又は国定公園新規指定の選択

<基本ストーリー>  
●環境省が選定した八幡平周辺の大規模拡張地域(4つの県立自然公園を含む)とは、生物多様性国家戦略に基づき、既存の国立公園から連続する奥羽山脈の脊稜線の生態系保全を主眼としている。  
●4つの県立自然公園とその周辺は、既に国立公園編入も国定公園の新規指定も、その資質を有していることを前提に、2023年から「考える会」の拡張提案を受けて本格的な環境調査を開始している。  
●実際の環境調査によっても、その資質は裏付けされているとし、拡張地域や地種区分の格上げ調査に加え、国立公園編入又は国定公園の新規指定のストーリーを見定めている。

<第一ストーリー>  
●青森県の十和田八甲田地域を起点に八幡平地域から和賀山塊を挟み真昼山地の横手市に至る奥羽山脈約180kmの脊稜線に隣接・近接する既存の4つの県立自然公園を編入し、十和田八幡平国立公園の名称で何処まで拡張できるか。その課題は、3県18市町村全ての合意が必要となる。  
●また、「以前から乳頭温泉郷関係者らの十和田八甲田地域と八幡平地域の分割論議は承知しているが、今般の見直しに分割計画はない」。「4つの県立自然公園を編入しても、十和田八幡平国立公園のブランド名は替えない(他の山岳名を公園名称に加えない)」ことを表明した。

<第二ストーリー>  
●十和田八幡平国立公園編入という大規模拡張計画に関係自治体3県に跨る18市町村の合意が得られない場合は、周辺4つの県立自然公園は個別の拡張地域や地種区分の格上げをもって、国定公園の新規指定(面積要件15,000ha以上)とするストーリーです。

<サブストーリー>  
●国定公園の新規指定を選択する場合、森吉山と太平山は面積要件(15,000ha以上)を満たすが、田沢湖抱返りと真木真昼県立自然公園は、面積要件に満たないため、十和田八幡平国立公園に編入するか、又は県境を跨いで新規国定公園「田沢湖和賀真昼国定公園(仮称)」を選択することになる。

<基本課題>  
●県立自然公園から国立公園に格上げされることは普通はない。国立を目指すとするれば、今般の見直しで国定公園に格上し2030年度以降も継続されるであろう見直しにおいて、単独の森吉山国立公園を目指すことになる。

<面積要件>  
●国立公園の面積要件は3万ha以上である。拡張地域は、環境省の目指す森吉山(15,214ha)の大又川と小又川の全集水域とその里地里山を拡張することになる。

<景観要件>  
●景観要件は、偉大さ・雄大さ・原生性・希少性・特殊性・固有性・及び地学的現象の劇的性のいずれか又は複数の観点から、同一風景形式中、我が国の風景を代表すると共に、傑出した自然の風景を有する地域を満たす、説得性がある資質条件とストーリーを如何に作り上げるかである。

<森吉山カルデラの概要>  
●森吉山カルデラは、約300万年以前の噴火活動によって、東西約30、南北約25km、周囲約120kmのカルデラに標高300~1000mの外輪座17座を連ねる山域は約5万haに及ぶであろう。  
●その森吉山本体はカルデラ中心部を埋めるように、十二単衣を着飾った主峰向岳(1,454m)が山頂部に東西3kmのカルデラを重ねて鎮座する。  
●森吉山全集水域である奥森吉の小又川と奥阿仁の大又川は、阿仁前田地区で合流し、かつては大きな湖であったであろうカルデラの一角を押し流し、阿仁川になったと想像する。  
●カルデラ平野部の人口は旧阿仁町地区が2,185人、阿仁前田地区は1,419人が暮らす。  
●小又川と大又川の流れたカルデラ全域(約5万ha)は、森吉山本体と同化する緩衝地域として普通地域に指定。その里地里山と山頂から望むカルデラ全景のパノラマは、何処を切り取っても日本の原風景である。

<森吉山を単独の国立公園に>  
●森吉山は十和田八幡平国立公園の一角に編入される山域ではない。なぜなら、十和田八幡平地区とは日々の眺望も公園利用の一体性もなく、共に文化圏も経済圏も異なる独立性・独自性を持った山域だからです。  
●国立公園編入は3県18市町村すべての環境調査と編入合意が必要となり、2030年までの完了は物理的に不可能です。まずは国定公園の新規指定を完了し、約5万haに及ぶカルデラ全域を単独の森吉山国立公園にすることです。  
●十和田八幡平の一角に甘んずることなく、地域の熱意を示す官民挙げての行動を求めたい。  
●森吉山カルデラ国立公園構想は、九州の阿蘇カルデラをモデルに環境省と協議を進めています。

### 3. 森吉山エリアの選択は

森吉山は十和田八幡平国立公園に編入か又は国定公園新規指定を選択することになる  
<この選択は環境省ではなく関係市町村の合意で決定される>

<佐竹秋田県知事の発言>「国立・国定公園の区分もあるが、まずはこの機会を逃さないように、県としても(調査に)力を入れていく」との考えに止めている。(2025.4.19 秋田県知事 鈴木健太 就任)  
(2022.12 県議会予算特別委員会総括審査: 北林議員の質問答弁)  
<津谷北秋田市市長の発言>「国立公園の分割論議も聞いている。山岳関係者の皆さんが国立ありきでなければ、一気に国立編入ではなく、北秋田市単独の森吉山は国定公園の段階を踏んでも良いのではないか」(2023.2 山岳団体の要望書提出の懇談)との見解を示している。

